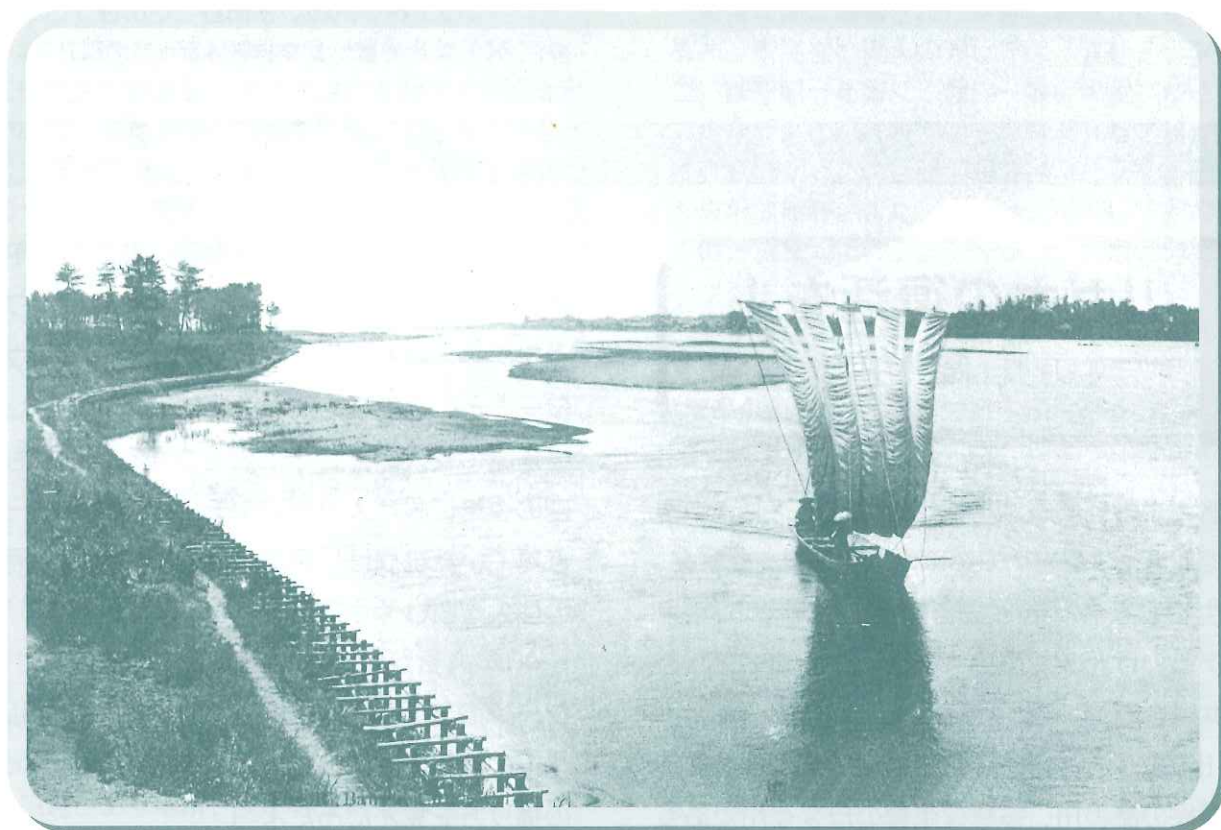


あじえんだ

第7号



《も く じ》

- キーワード随想「川をたのしむ」2
 - ・川ガキの復活を！ 岡田一慶
 - ・とっておきの場所 篠田授樹
 - ・水とともに15年の田舎暮らし 中垣勝弘
 - ・自然のちから 林美保
- 上下流交流事業実施報告（植林体験） 小野沢みどり6
- シリーズ 生き物たちの語る相模川4「カワラヨモギvs.ヨモギ」 浜口哲一7
- 流域ウォッチング⑤ 流域のまつり8
- 2001年度定期総会開催される アジェンダ21桂川・相模川の具体化進む10
- 市民・事業者・行政のページ 石田幸彦/加々美清子/山本豊美/高部晋11
- ツアー&ウォッチングレポート 桂川・相模川の水源地を歩く14
- 流域紀行「相模川の渡し船」15

《キーワード随想》

川をたのしむ

川は、人々にとって様々なたのしみを与えることができるフィールドです。今回は、いろんな形で川を楽しんでいる方々から川への想いを綴っていただきました。

※掲載は五十音順別です。

川ガキの復活を！

岡田 一 慶

水ガキ養成講座は相模川ウォッチング（中津川で遊ぼう、道志川で遊ぼう、鮎の遡上観察会、底生物観察会）などを含めると今年で10年目である。けんぽく生協（現在はゆめコープ）との共同企画だ。

川で遊ぶことによって相模川に親しみ、神奈川県民の命の川、多様な生物の母なる川である相模川のはたらきや生態系を体で憶えたことを土台として、相模川を見守ることを目指している。

水ガキ養成講座の実施場所は昭和橋右岸下流の伏流水による幅5mほどの細流である。本流は濁っていた。2週間前の台風によって、ダム水の濁りがとれないからだ。しかし細流は伏流水のため対称的だった。

オイカワやウグイが群れているが、子どもも親もどうやって捕まえるのかわからなくてバタバタしている。

大勢の子どもが押し掛け迷惑そうだった河原

の住人が、見兼ねてタモを岸辺の草むらの下に差し入れ、ゴソゴソした時、数匹のオイカワがタモの中で跳ねていた。周りの子どもが「ウウワー」という驚嘆の声を上げた。

河原の住人は無造作に魚をつかみ、子どもの空のタモに投げ入れた。タモの中の魚をじっと見ていた少女は、今度は尊敬の眼差しで河原の住人を眩しそうに見上げた。

40年前私がふるさとの清滝川で遊んでいたシーンが鮮明に浮かんできた。「そうだ、私も年上の近所のおにいちゃんのあとに付いて、魚の捕り方を覚えたんだよ。」

河原の住人の後には、川ガキとなりつつある少年時代の私がゾロゾロつながっていて、実に印象的な光景だった。

昨年、高知県と徳島県の県境を流れる海部川、野根川をカヌーで下ったが、清冽な流れのなかで、川ガキの群れが多数生息していた。ウグイや鮎をヤスで突き、コバルトブルーの大きな淵で岩飛びをしている姿は実にいきいきとしていた。ヤスは大人は禁止されている漁法だが、川ガキには認められているだけでなく、入漁料も免除されているとのこと。川ガキが生息できる環境は魚がたくさんいるきれいな流れだけでは

なく、それを受け入れる大人の文化が必要なのだろう。

相模川では川ガキが絶滅の危機に瀕している。河原に不法投棄、コンクリート護岸やスポーツ広場が目立つ相模川を、河畔林が連なり清らかな清流が流れる相模川に再生させるためには、川ガキを復活させて人と川の繋がりを再生させることだ。

毎年相模川のクリーンアップをおこなっているが、それに参加した流域の小中学生には相模川で魚釣りなどが自由にできるカードの配付するなど、子供と相模川を繋ぐシステムを考えることも大切なのではないかと思う。

(相模川キャンプインシンポジウム)

注：水ガキ=水+ガキ（子ども）。川ガキも同じ

とっておきの場所

篠田 授樹

夏が近づくと、我が家の裏は近所の子供たちの、とっておきの**遊び**場所に変身します。野積みになった古い椎茸のホダ木の山を掘り返すと、カブトムシの幼虫がごろごろと出てくるからです。数年前、ある好奇心旺盛な昆虫少年が「歴史的発見」をして以来、この情報は限られた仲間内で受け継がれているようで、毎年若いメンバーが加わりながら世代交代をしています。私も彼らと同じ歳の頃、裏山にカブトムシやクワガタムシを追い掛けていた日々を思い出します。やはり、他のグループには秘密にしている、樹液のたくさん出る木が何本もあったものです。

今日、自然環境の消失が深刻な問題といわれています。この背景には、子供よりも大人の心



の中から、とっておきの場所がなくなってしまったことが無関係ではないような気がしています。かつて、山や川が生活の糧を得るために重要な場所だった頃、人々は大木や巨岩、湧水、沢や淵などの目印や微地形にそれぞれ名前をつけて、識別していたといいます。現在もその名残をとどめる地名がないわけではありません。しかし地図をひろげてみても、町の中には様々な建物の名称が書き込まれているのに比べ、山や川には等高線やせいぜいただきの名前、大きな川や滝、橋の名前が認められるに過ぎません。

自然には二つと同じものはありません。同じ種類の植物、動物はいますが、同じ植物、動物はいません。私は沢登りが好きで、桂川（相模川）の流域にもとっておきの場所がいくつかあるのですが、瀬や淵、滝や湧水の姿、川底の色、水の味、流れの音、吹き抜ける風の香り、どれもみな個性が違います。

同じ沢でも、詰めていくと、滝を境に上下流でまったく異なる顔をみせることも珍しくありません。ある枝沢にはサンショウウオが棲んでいるのに、その沢が流れ込む本沢にはいないこともあります。そのかわり瀬脇の巨石には、ごんべえ（ヒキガエル）が、まるで哲学者然として佇んでいたりします。

最近では、インターネットや衛星放送の普及もあり、様々な規模の環境に関する情報や知識



があふれています。けれども、直接ふれることのできる身のまわりの自然環境の中に、自分だけの、かけがえのない、とっておきの場所を見つけることも大切だと考えています。

(桂川をきれいにする会)

水と共に15年の田舎暮らし

中 垣 勝 弘

私は、15年前、都内でグラフィックの仕事をしていましたが、山梨県の道志村で道志川のごごくきれいな水とクレソンに出会い、神地集落というところを神の地！と思い、都会を脱出して移り住んで、あこがれの新田舎人になりました。そして道志村と富士山のまわりの湧水の出る所でクレソン栽培を本腰を入れてやることになったのです。

有機栽培は、きつくて、つらくて、利益バランスが悪くて、マイナーというかネガティブなイメージで、今までは、一部の消費者にだけ支持されてきたのですが、最近では、いろんなメディアにも取り上げられるようになり、デパート、スーパーでも80~85パーセント取り扱われ、外食産業でも積極的に採用されるようになりました。

消費者が、食の安全性や、環境問題を真剣に考えるようになり、やっと市民権を得たようです。頑固とかポリシーとかで頑張っている、今

はやりの変人が、やっと陽の目をみることが出来た思いです。

農薬、ポストハーベストなどの化学物質は、直接的に人体に害を及ぼすことだけが問題ではなく、大量に環境中に放出、拡散され、雨水によって河川に流れ込み、食物連鎖などによって環境や人体にあまねく影響を及ぼしていく点でこわいものがあります。

「これは、3年以上無農薬、無化学肥料の畑で採れた野菜なんだ。そうでないものは本当の有機農産物ではない。」と目くじらを立てて非難して差別するよりも、むしろ少しでも農薬を減らそう、化学肥料を減らそうとしている、たくさんの生産農家の努力を社会的に評価するモノサシやサポート体制を造りあげることが大切だと思います。

農業は、市場、経済を最優先にせず、拮抗と共生の関係を保ち、限られた地球資源のなかで生物が調和して生きる生命原理を基本とすべきだと考えます。

道志川は、いわな岩魚、やまめ山女、あゆ鮎、こうぎょ(香魚)、こういった美しい文字の魚たちがいる生きた川です。いい水は貴重品という、物質というよりも、尊敬に値する・・・私にとっては神の分身のようなものです。それは、私の全てが水によって支配されているからです。

いい水によって、いいクレソンが育ち、おいしさ、見姿、収穫量が左右されて、収入や自由時間が決められるので、水とは緊張してつき合っています。

私のもっともくつろげる風景は、川の風景です。川(水)から**学び**、そして、**いや**されているんです。人生のキャンバスにいろいろな色を重ね、最後には、限りなく透明に近い湧水の色になればいいな～と思っています。

(フォレストファーム代表)

※2001年6月2日定期総会の講演から抜粋

自然のちから

林 美 保

霊峰富士の懷に抱かれた山中湖。桂川・相模川の最源流にあたるこの湖は、ヨットセイリングをはじめとしたマリンスポーツのメッカでもあります。山中湖のヨットの歴史は古く、69年前に東京帝国大学の学生が、小型漁船を改造したヨットで、湖面に乗り出したのがはじまりだといわれています。

私も、就職して山梨県に来てから、地元の中学生や高校生と一緒にヨット競技をやっています。中学校にヨット部があるのはめずらしく、全国大会でも大いに活躍してくれる、頼もしい仲間たちです。

ヨットといっても、私たちが乗るヨットは、そんなに大きなものではありません。主に1人乗りのミニホッパーというクラスで、パタパタとヨットのボディーを叩くさざ波を、間近に聞きながら湖面を帆走するのですが、小さいとはいえ、風を捉えると相当なスピードを感じ、自由にセイリングするためには、技術と体力が必要です。

ヨット競技は、対戦相手はもちろんですが、まず、波や風といった自然を相手にしなければならぬので、自然への畏怖の念や、その豊かさを感じる心が育まれていくようです。子供たちを鍛えるのは、風であり、波なのです。指導する大人達は、子供たちに自然の厳しさ・優しさとヨットの怖さ・楽しさの一部を紹介するに過ぎません。

流域といえば、河口にあたる湘南の海でもヨットの競技会が開かれます。湖でセイリングしているときは、自然の大きさを感ずりますが、海でのセイリングでは、人間の存在の小ささを感ずります。ゆったりとクルージングしているとき



は、海でも湖でも自然に抱かれ、**いやされた**気持ちになります。

山中湖には、釣り客をはじめ、多くの観光客が訪れます。湖畔を歩くと、釣り客の残っていたルアーや、釣り糸などが多く目につきます。地元の住民が協力して湖畔のゴミ拾いなどを行っていますが、美しい山中湖を守るためには、訪れる人々のマナーが必要です。観光客として、ただ訪れるだけではなく、湖の自然を肌で感じ、体験することにより、自然を慈しむ心が芽生え、ゴミの持ち帰りなどマナーの向上につながると思います。

ヨットを通じた仲間は上流、下流を越えて世界に開かれています。湖でも海でも、いつまでも自然の豊かさを感じながらクルージングができるように、自然の力を広く伝えていけたらいいなと思っています。

(山梨県総務部税務課)

〈表紙の写真〉 茅ヶ崎市文化資料館提供

明治末期ごろの馬入川夕景。実写による絵葉書だが、右方に小さくしか見えないはずの富士山が大きく書き込んであるのがおもしろい。左岸側が湘南潮来で知られた当時の茅ヶ崎町である。

●概況報告

宿泊交流で大きな成果

平成13年5月12日、13日の両日、上下流交流事業が実施されました。

初日は、山梨県南都留郡忍野村において、植林体験作業を行いました。今回は、「複層林施業」という、より自然林に近い森林を造成する方法により、ハンノキとヒノキの苗2000本を植えました。快晴のなか、富士山を眺めながらの作業で心地よい汗を流し、森を造ることの大変さと同時に、楽しさを感じられたのではないのでしょうか。植林作業が終わったあと、同村内にオープンしたばかりの富士湧水の里水族館を見学しました。豊かな川の生態系も、豊かな森林あってこそと思いを馳せてご覧になった方も多いと思います。

今回は、初めての試みとして宿泊コースが設けられ、ほぼ半数の約70名が加わりました。植林などで疲れていたにもかかわらず、夕食後の交流会には多数の参加があり、積極的な意見交換が行われました。2日目は、全国植樹祭記念行事「流域パートナーシップ交流集会」に参加し、全国の森林インストラクターや山梨県住民と森づくりについて意見交換を行いました。その後、森林インストラクターの案内により青木ヶ原樹海を散策しました。富士北麓の豊かな自然を満喫し、参加者それぞれが、森林への思いを新たにされたことと思います。

なお、昨年度と今年度の上下流交流事業で私たちが植林した6千本は、本年5月に山梨県で行われた「第52回全国植樹祭」の一環の「21万本植樹」にカウントされています。これに関して9月20日に、山梨県知事から本流域協議会あてに感謝状をいただきましたのでご報告します。

最後になりましたが、事業の実施にあたり、多大なご協力をいただきました忍野村の皆さん、地元企業会員の皆さんに、厚くお礼を申し上げます。

(事務局 小澤)

●参加者感想

環境活動の扉に

小野沢 みどり

今回の植林作業は私にとって初めての植林作業でした。なので、最初は何をしたら良いのか、どうしたら良いのか、わからず戸惑ってしまいました。

しかし、作業をしていくうちに、協議会の皆さんや、他の参加者の皆さんが親切に指導してくださり、初めての私でもたくさんの苗木を植える事が出来ました。

今回の作業で私は木の大切さ、というものを再確認しました。当たり前のことですが、木が成長するにはとても時間がかかり、木の種類により成長の速度、使用用途が異なるということ。そして、参加して始めて分かったのが植林という作業にたくさんの人が参加し、環境問題を考えているという事です。

恥ずかしい事ながら、私は大学で環境について勉強しているのに関わらず、実際に外に出て、環境に関わる活動に参加したことはありませんでした。しかし、今回の作業は私にとってこれからの環境活動への扉となり、次のステップへのとても良いきっかけとなりました。

これからも積極的に環境活動に参加していきたいと思っています。また、桂川・相模川流域協議会での活動にも参加したいと思います。貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました。

(愛川町 市民)



カワラヨモギvs.ヨモギ

文・イラスト 浜口 哲一

カワラヨモギ：秋だなあ。空は高いし、風は気持ちがいいし。

ヨモギ：まったくだね。我々は風に花粉を運んでもらうから、適度な風というのが何より嬉しいね。

カワラヨモギ：それはいいんだけど、ヨモギさんといつから隣合わせになったのかな。もともと、石がごろごろした河原は、我々カワラヨモギの領分だったはずなんだけどね。

ヨモギ：そうかたいこと言わないでよ。同じヨモギのよしみで、隣同士だっていいじゃないか。

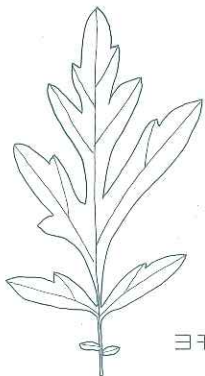
カワラヨモギ：そう言ってもね。河原というのは雨が降ってもすぐに水がしみこんでしまうからいつもからからに乾いている。水がしみこむときに、栄養分も流してしまうから、土地がやせている。おまけに大水で流されてしまうことも多い。こういう場所には、我々カワラヨモギのように、葉っぱが細くて乾燥に強かったり、深く根を張れたり、選ばれた植物だけが生えることができるんだ。ヨモギさんと我々は太古の祖先は一緒らしいけど、お互いの領分は守ってほしいね。

ヨモギ：カワラヨモギさんはそういうけど、この頃の河原って、そんなにやせた土地ではないんじゃないかなあ。僕らだってちゃんとやっていけるよ。

カワラヨモギ：実際のところはそうなんだ。このところダムができた関係か大水が出るのが少ないから、いろんな草が生えてきてね。枯草なんか積もっていくもんで、どうも土地が肥えてきているんだ。我々河原専門の者にとっては、かえって息苦しくて住みづらくなってきてるんだ。

ヨモギ：それはお気の毒。そういえば、カワラヨモギさんには似た名前の友達がたくさんいたはずだけど、みんなどうしてるの？

カワラヨモギ：そうそう、一昔前まで、隣組と言えば、まずカワラニガナさん。黄色くて可憐な花をつけていたなあ。それにカワラハハコさん、生きているうちからドライフラワーみたいな洒落た花だった。忘れちゃいけない



ヨモギ

いのは相模川のスター、カワラノギクさんだ。紫色の大きな花を一面につけたところなんか、ほれほれとしたね。

ヨモギ：昔話みたいに言うところを見ると、その仲間はみんな姿を消したのかい。

カワラヨモギ：ぜんぜんいなくなったというわけじゃないんだけどね。生えている場所が少なくなったんで、みんな細々とやってるって、風の便りに聞くくらいだね。

ヨモギ：僕らは、もともとは野道とか畑の周りとか、土地の肥えた所に茂っていたんだ。乾いて痩せた河原なんか、金輪際生えないつもりだったんだけどね。来てみたらなかなかいい具合で、つい住み着いちゃったんだよ。

カワラヨモギ：実を言うとね、つい最近まで我々カワラとつく植物は、他の植物が生えられないような厳しい環境に耐えられる強い植物だと思ってたんだよ。それが、まあ我々の誇りだったというわけ。ところが、河原の環境がだんだん変わって、他の植物がどんどん入ってくると、我々はどンドンすみに追いやられて行くじゃないか。実のところ、我々は競争に弱い植物だったんだって、今頃になって気づいたっていうわけだ。

ヨモギ：まあ、そう弱気にならないでもいいんじゃないか。河原には必ず、君らじゃなきゃ生きられないような場所が残るよ。

カワラヨモギ：なぐさめてくれてありがとう。せいぜい頑張るよ。我々の生えるような所には、カワラバツタさんとかカワラスズさんとか、虫仲間もいることだしね。

(平塚市博物館学芸員)

出演者のプロフィール

カワラヨモギ：川原などの乾燥地に生える多年草。葉が糸状に細く枝分かれし、春先に出る葉は灰緑色をしている。

ヨモギ：畑や土手、道ばたなどに生える多年草。香がよく、新芽は草餅の材料にされる

流域ウォッチング⑤

流域のまつり



⑥ 牛倉神社祭典

(上野原町 9月4日から6日)
 勇壮な暴れ御輿や、新町・本町の二台の山車が出て自慢のお雞子、笛、鉦、太鼓で腕を競い合う。この祭りは、郡内三大祭の一つとして広く知られている。



⑦ 水源の森音楽祭

(道志村 8月の第1金～日曜日※変更あり)
 世界の音楽を生でふれあうことができるもので、2日間夜間に行われる。
 東富士七里太鼓の他ジャンルを問わない 国内外の音楽及びパトルセッション等。



⑧ 竜宮祭

(足和田村 8月2日)
 水の神「豊玉姫命」を祭る竜宮神社の祭典。青木ヶ原樹海が闇に包まれる夜7時、西湖に浮かぶ500個の灯籠に一齐に灯りが点火される。湖面に火影が揺れ、神秘の湖と炎の幻想世界が広がり、打ち上げ花火が湖面を彩る。



⑨ 吉田の火祭り

(富士吉田市 8月26、27日)
 日本三大奇祭の一つに数えられる北口本宮富士浅間神社と境内社諏訪神社の秋祭りの行事。富士山五合目から八合目までの山小屋前のたいまつにも火がつき、街とお山が一体となり夏の夜空をこがし、行く夏の風情を惜しむ情緒豊かな火祭りである。

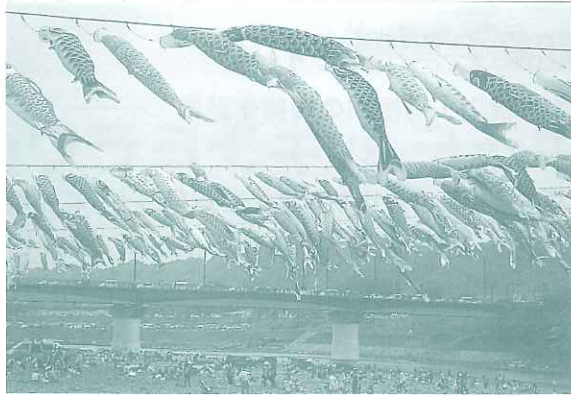


⑩ 忍野八海まつり

(忍野村 8月8日)
 守護神である八咫王をまつり、旅の安全と平和を祈念するもの。夜は高坐山に浮かび上がる「八文字焼き」や、この祭りの目玉でもある打ち上げ花火なども繰り広げられる。

参考文献

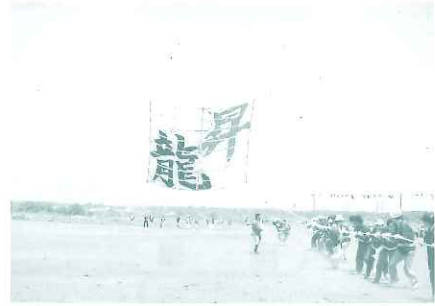
「ぶらっと相模川
-訪ねてみよう今むかし-



⑤ 泳げこいのぼり

〈相模原市 4月29日～5月6日〉

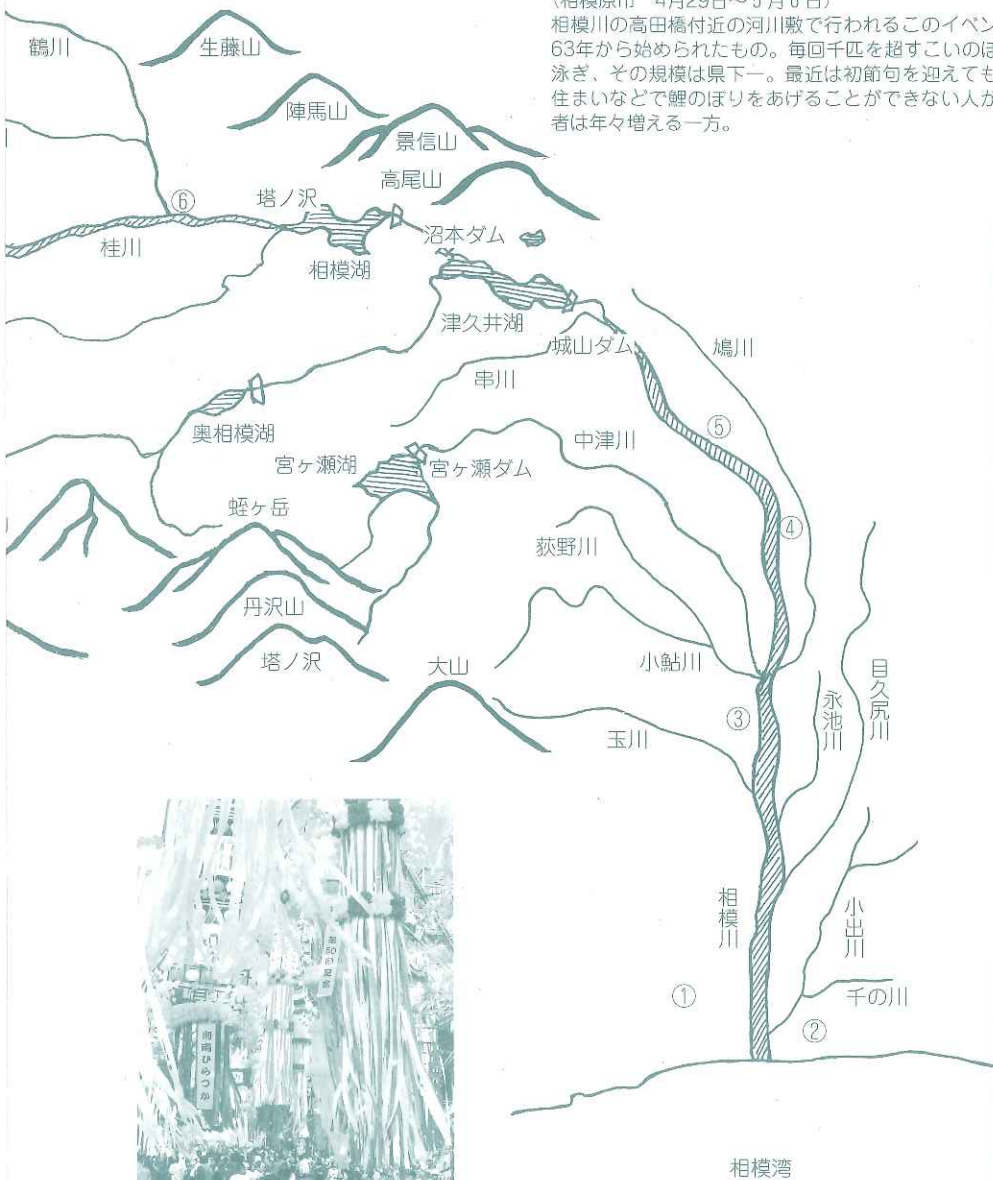
相模川の高田橋付近の河川敷で行われるこのイベントは、昭和63年から始められたもの。毎回千匹を超えるこいのぼりが青空を泳ぎ、その規模は県下一。最近では初節句を迎えてもマンション住まいなどで鯉のぼりをあげることができない人が多く、参加者は年々増える一方。



④ 座間の大凧まつり

〈座間市 5月4日、5日〉

端午の節句を祝う伝統行事として毎年、相模川の座架依（さかえ）橋付近の河川敷で行われている。12.6㎡四方の大きさに、重さ800kgを超える大凧が100人近くのおそろいのハッピー姿の若者たちによって、大空に舞い上がっていく。その様はまさに勇壮だ。



③ あつぎ鮎まつり

〈厚木市 8月第1土曜日を中心とする3日間〉

厚木市街と、相模川、中津川、小鮎川の三川合流地点で行われる郷土夏祭りの一つ。市街地でのオープニングパレードは仮装行列、厚木音頭踊りなどでにぎやかに盛り上がる。そして、ミス若鮎コンテスト、勇壮な御輿（みこし）ショー、花火大会などのメニューが続く。川べりでは、鮎のつかみ取り大会も。クライマックスは街をあげてのカーニバル。



② 浜降祭

〈茅ヶ崎市 7月15日〉

寒川神社から御輿（みこし）がかつぎ出され、途中から近郷各神社の御輿30数基が加わり海岸に向かって練り歩き、茅ヶ崎の南湖西浜海岸を渡御した後、古式豊なみぞぎの神事が行われる。暁のなぎさを列をなして渡り、旭光を浴びる姿は社観で、まさに、「暁の祭典」というのにふさわしい、勇壮な祭だ。

① 平塚七夕まつり

〈平塚市 7月7日を中心とする5日間〉

昭和26年、地元商店街によって始められ、仙台とともに日本を代表する七夕まつり。平塚駅から続く竹節りのアーチは、年ごとに豪華さを増し、飾りに灯がともされる夜は、街全体が不夜城になったよう。ミス七夕、七夕の女王のパレード、七夕おどりパレードなどが練り広げられる。



2001年度定期総会開催される

—— アジェンダ21桂川・相模川の実体化進む ——

牧 島 信 一

2001年度の事業計画など協議する定期総会が6月2日（土）に相模原市の“ソレイユさがみ”で開催されました。当日の様子や感想等をまじえて、報告いたします。

議 事

定期総会の議長には、山梨県の山本幹夫さんが選出され、山本さんの司会で議事が順調に進みました。議事に入り、平成12年度事業報告(案)及び収支決算(案)について事務局から説明がありました。つづいて、平成12年監査の結果の説明があり、石田監事から、2000年度事業についての講評がありました。また、平成13年度事業計画(案)及び予算(案)について、事務局からの説明がありました。

アジェンダ21桂川・相模川の行動指針・行動計画(案)については、市民部会幹事小宮さんの司会で、市民案をたたき台として、協議してきた「森

づくり」、「生き物との共生」、「水質・水量の保全」、「散乱ゴミや不法投棄のない地域づくり」、「開発事業・公共事業」、「連携した取り組み」の6項目について、それぞれの章を取りまとめた主担当者を紹介しながら説明が行われました。昨年度整理を行ったすべての案について承認されました。

なお、事業報告の一部では、ホームページの試作品が液晶プロジェクターからスクリーンに映し出されて、水環境の保全を象徴する水色のトップページと内容の一部が試写されました。

質疑応答など

主として次のような点での質疑応答が行われました。地域協議会に関する予算額、事業報告・監査等の方法／ホームページ作成の進行状況と会計上の監査／年度全体の会計報告に関するより詳細な補足説明、等々です。

最後に協議会のアドバイザー田中充さんから、「アジェンダ21桂川・相模川ではまず事実を認識する課題、方向性を示す行動指針、そして行動計画と進んできましたが、今後は更なる行動の実体化と評価の視点を持って取り組む必要性があります。評価においては数値目標化していく努力をし

ていきましょう。」との助言がありました。

今年には2000年度活動報告書もあり、活動の全体像が一望できるようになってよかったという声が聞かれました。また「アジェンダ21桂川・相模川」の行動計画をさらに具体化させ、市民・事業者・行政のパートナーシップで、いよいよ本格的に実行していく段階に入ってきたことを共感し、確認した総会でした。

(横浜市 市民)

今回は、総会に先立って、2つの講演がありました。最初に、(株)リコー厚木事業所画像品質保証システム推進室担当部長小林勲彦氏から「リコーにおける環境の取り組み及び環境ボランティア活動について」の講演がありました。リコーにおいては、「環境対策の段階を経て、自主的に取り組む環境保全活動となり、現在では、環境会計を含めた環境経営へと、その取り組みも本格的になってきた。今後は、環境と経営を同じベクトルで取り組む必要がある」とのことでした。また、工場の中でのピオトープの空間づくりや海岸でのクリーンアップ活動等の環境ボランティア活動などが地域交流の事例として紹介されました。

次いで、フォレストファーム代表中垣勝弘氏から「水とともに15年の田舎暮らし」の講演がありました。※中垣さんのお話は、本会報P4 にのせてありますので、ご一読ください。

このページでは、各主体の皆さんから、本年度総会の合意事項等を受け、その感想や、今後アジェンダ21桂川・相模川を推進していく決意などを寄せていただきました。

2000年度桂川・相模川流域協議会 事業について (2001年度定期総会監事講評)

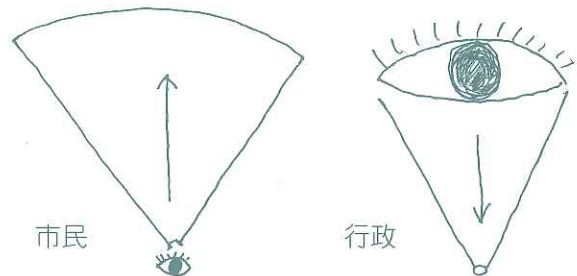
石田 幸彦

1998年1月の協議会設立以来、年ごとに充実してきつつあることを実感します。財政状況の悪化が言われて久しいものの、クリーンキャンペーン事業をはじめ、上下流交流事業など活発に行われていることに敬意を表します。

2000年度活動報告（年報）にもあるように、行動指針や行動計画にも一定程度の合意が見られ、今後も活発な議論が展開されることが予想され、より具体的な実施計画が求められるものと期待しています。いつ、どこで、誰が、どのように行っていくかといった、いわば5W1Hを組み立てていくことが必要になると思われます。アジェンダの課題は、今後目標を数値化するなどの評価手法にも及ぶことと考えられます。市民にも分かりやすい評価システムの採用など、今後の協議会の専門部会での議論に期待します。

日本の多くのローカルアジェンダが形だけのものに終始している中、流域版とはいえアジェンダ21がここまで進んでいるものは先駆的といえます。しかしながら、もう少し力を入れると、さらに良くなるだろうと思うところを3点挙げさせていただきます。

1. ツアー&ウォッチングに見られるような共通の認識を得るための共同行動の活発化を求めます。情報の共有化は不可欠であり、行政部会、事



業者部会メンバーのさらなる参加を求めたいと思います。

2. 昨年度も行政部会・事業者部会などへの監事としての出席は断られました。詳細な議事録を拝見させていただきました。事務局の方のご苦労に感謝します。真摯な議論が交わされている様子がとてもよく分かりましたが、総会で選ばれた監事としての役割上、あらためて行政部会あるいは事業者部会へのオブザーバー参加を求めます。また、事業者部会でも疑問が出されたように、各主体別部会がなぜ必要であったのか、再度各主体別部会で議論をしていただきたいと思います。

3. パートナーシップのあり方（感想）

市民は小さな専門的な穴から広い世界を見渡しているようであり、行政職員は広い見識と深い洞察力があるにもかかわらず、小さな専門性にのみこだわっているように思えます。それを少しでも超えるようにすると「越権行為」とでも表現します。

職業柄とはいえ、縦割り行政が長かったことの弊害とでも思えます。個人的なあげ足とりやつるしあげは行わないなどの、話し合いの基本的なルールを定めた上で、ボーダーを超えることが、パートナーシップの始まりではないでしょうか。徹底した議論はここから始まります。

地域協議会では、さまざまな形でボーダーを超える試みが模索されているようです。各主体別部会でも、パートナーシップのあり方論を議論していただきたいと思います。

自覚した主体の集まりとして協議会が今後もますます発展することを大いに期待します。

(相模湖町 市民)

総会に思う

加々美 清子

平成13年度総会が相模原市橋本で開催された。流域のみどりの田園風景を見ながら電車を乗り継いでの出席であった。

下流域に発展した橋本市。ソレイユさがみは都会的なセンスを漂わせていた。これまでに会議は流域の数々の地点で開催され、数を重ねた。総会の受付にて顔を合わせる市民、事業者、行政のみさなさんは、アジェンダ21の成果に充実した面もちに思われた。

森づくり、生物との共生、水質・水量保全、ごみのない地域づくり、開発公共事業、連携した取り組みの六つの柱に対し、環境保全をよりよい状態で進めていくための議論が交わされた。会議の持ち方についての提案、保全を浸透させるための施策など、市民は活発であった。時に譲らず対立的場面を見ることもあったけれど、それぞれが合意に向け努力してきた。

総会に先立っての講演では、大企業の環境への取り組みが紹介されて、ボランティア活動も行っているという。

有機農業でクレソンを栽培している事業者からは、流域の自然の中、こだわりをもった有機農業への取り組みが発表された。

今、環境社会は変わろうとしている。自分に何ができるのか、どう携わっていくのか。総会は反省と決意の場であるようだ。

発足当初のたくさんの検討課題が行動指針となり、実践事項へと移行し合意された。会議への参画や事業活動、学習会など、目で確かめ、足を運んで意義を深めてきた。

市民、事業者、行政の協議によってアジェンダ21が策定され、共有された。

また、今年度も課題の合意形成の成果を期待し、進んでいきたい。そして、誰もが、平等に与えられた機会を大切に、行政や環境活動先駆者と共に歩めることに感謝し、リーダーシップを養っていこうと思う。

(富士吉田市 市民)



"地産地消"を今こそ！！

山本 豊美

私どもコープやまなしは山梨県下で事業展開している「購買生協」で、只今組合員2万5千余人、年間供給高は45億円程に達しております。

私どもが特に力を入れているのが、「Food」の分野で、「風土」にかけて、産地の環境を守り持続的な農業を支える食べ物の供給と食べ方の提唱に取り組んで来ております。

中でも、消費者である組合員と、生産者が、顔の見える関係を結ぶいわゆる「産直交流」は大切な行事です。そんな場で、よく耳にするのが「地産地消」という言葉。「その土地で獲れたモノをその土地で消費する」といった意味です。新鮮だし、流通コスト（経費・時間）がかかってないし、顔の見える関係が作りやすいし、といった利点に加え、「地域の食文化を大切にする」大事な要素がある、と、ここまではご存知の方も多いことでしょう。

先日、私は秋田県大潟村に行つてまいりました。大潟村は今年6月に、「環境創造型農業宣言」をした村として全国的に注目を集めています。その時も、「農法研究会」らの学識研究者が大勢見学に見えていました。私はそこで、ある学識者からステキな言葉を聞きました。ここに紹介します。

「地域づくりの観点で言いますと…。最終的には、品格のある土地には、そこに人が訪ねて来なくなるものです。…(中略)… 地元の人達が、その土地の一番新鮮で、一番良いものを食べるべきです。それが『地産地消』です！！そこに訪ねてきて、美味しいものを口にした人達は、きっと

またこの土地にやって来ます。』

…聞いてハッとしました。「品格のある土地」という言葉に！そして「きっとまたこの土地にやって来ます」という言葉に！

「地産地消」は、食べ物に限った話ではないのではなかろうか…？ 風景だって、水だって、空気だって、「地産地消」だ。その土地の人がまず、一番楽しんで味わって、そこに訪ねて来た他所の人もお相伴に預かって…。その他所の人は胸中に「ああ、ここに住んでいる人は幸せだなあ。」といううらやましさ、憧れを抱き、故郷に帰ってそこで周りの人に話し伝える。すると、それを聞いた人がまた、かの土地に憧れを抱く。…かくして、かの土地は巷の人に憧れを持って語り伝えられる「品格のある土地」となっていく。

桂川・相模川の流域に住んでいる皆さん、もっと川を楽しもうよ！味わおうよ！！

まずは川の近くの人達が「川の恵み」「川の文化」を知ってそれを享受し愛さなくては！！

今年、桂川で行った「せせらぎウォッチング」（山梨県生協連主催）は好評でした。参加した人達、特に子供たちの五感に、消化吸収された「7月の桂川」。…その子達が10年後、20年後何処に行っても、「きっとまた来る、戻って来る」桂川を残すことが、私達の務め。

カッコイイことを言って来ました。私ども、平日は会議等になかなか顔を出せませんが、「地産地消」のノウハウを発揮するのは強いです。楽しいことを仕組んでいきましょう！！

（生活協同組合 コープやまなし）

桂川を思う都留市の取り組み

高部 晋

都留市は、山梨県の東部にあり、東京都心から約90km、県都甲府から約50kmの距離に位置しています。面積は161.58 km²で、標高は中心地で490m、周囲は1,000m級の美しい山々に囲まれ、北東において大月市に、西に富士吉田市に開かれ、市の東方面、峠越えの道路により秋山村、道志村に連絡しています。一方、平坦地を国道139号、昭和3年には富士急行線が走り、絹織物取引市場の中心地でもありました。昭和44年中央自動車道

大月～河口湖の開通と、59年に都留インターチェンジの開設により都心へのアクセスを容易にしています。昭和29年には市制を施行し、昭和30年には都留短期大学（現在の都留文科大学）を創立、ゆるやかではありますが人口増加を続けてきています。

また、相模川（桂川）が市域の中央を西から東に貫流しており、都留市の主要な平坦地はこの河川に沿って帯状に形成され、中小河川は桂川に合流しています。河川水量の豊富さと地勢上の落差を利用し、市内には3か所の発電所があります。

さて、市の紹介はこれまでとし、環境保全について書いてみましょう。まず、河川の水質の保全につきましては、公共下水道の整備と併せ、合併浄化槽の推進のための補助制度の充実を図ると同時に、河川への焼却灰の流出を防ぐため家庭で使用しているドラム缶等小型簡易焼却炉の無料撤去など、水質の保全を図るなどの取り組みを実施しています。

また、不法投棄などによる河川へのごみの散乱を防止するため「都留市まちをきれいにする条例」を制定し、美化推進指導員による市内パトロールや投棄物の撤去を常時実施しております。ごみの投棄が後を絶たない理由には、資源の浪費と大量廃棄を助長してきたことや、自己中心的な考え方があると思います。こうしたパターンから脱却し、節約と成長を両立させる社会を築くとともに、環境教育をさらに充実させることも重要であります。時代の変化とともに、都留市ではグリーン購入を始め、資源の有効利用を図っています。市職員から変わろうとする意識を持ち、市民へ投げかけて行きたいと考えています。

（都留市地域振興課環境保全室）



桂川・相模川の水源を歩く

篠田 授樹

<桂川・相模川の水源地はどこだろう？>

こんな質問に答えられる人は意外と少ないかもしれません。川の水源地といえば急峻な山奥でポタポタと最初の一滴がしたたり落ちるイメージがありますが、桂川・相模川の水源地といえる場所は、

行程 11時00分：山中湖畔（山中）富士急バス「ホテルマウント富士入口」集合→桂川流出しから山中湖・花の都公園、ハリモミ自然林見学→山中湖畔へ→ママの森付近（湖畔）にて昼食→砂嘴の見学→15時00分：平野にて解散。

天気にも恵まれ、集合場所の山中地区には続々と参加者が集まってきました。今回の参加者は、19名です。下流の神奈川県の人からすると山中湖といえばちょっと遠いな、という感じがするかもしれませんが、御殿場線を利用すると電車・バスでも十分日帰りすることができます。

案内人は、山中湖を愛する会の浅川仁さん。この地の地理や自然に精通した、頼れる案内人です。浅川さんの提案で、起点である桂川（相模川）への流れ出し（ここには相模川水源地の看板があります）から、まずは桂川に沿って川を下ってみることにしました。この辺りは川とはいっても三面張り護岸で水路のようです。実際、東京電力の水力発電の取水路となっており、冒頭で述べたように一般的な源流域のイメージではありません。それ

富士五湖の一つ山中湖なのです。もう少し正確に言えば、富士山に降った雨や雪が浸透して湧き出る山中湖の湖底ということになります。今回のツアー&ウォッチングは、私たちの“水源地”山中湖畔をじっくり歩きました。

でもオイカワやコイなどの魚影を観察できました。

山中湖畔で整備している花の都公園付近で、珍しいハリモミ自然林を遠目に観察し、湖畔に戻ります。あいにく富士山には雲がかかり、時々恥かしげに顔をのぞかせるだけですが、水面を吹き抜ける風は高原のそれで、たいへん心地よいものでした。富士五湖というと観光地で騒々しいという感じもあるかもしれませんが、今回のコースは山中～長池～平野と、いわば裏コースのような道程で、静かな散策を楽しむことができます。

湖畔の公園で昼食をとり、ママの森という面白い地名の場所にさしかかります。湖畔を周遊するサイクリングロードもここだけは途切れ浜に下りて水際を歩くことになります。マシジミ貝に混じって、釣りのルアー（擬餌鉤）が多く打ち寄せられているのには驚きました。

やがて湖では珍しい砂嘴が現れました。山中湖は鯨のかたちに似ているといわれますが、この辺りはその尻尾の部分で、入り江状になっています。たくさんの釣り人に混じって、コブハクチョウの親子が岸辺で休んでいたのが印象的でした。

5時に行程の終着点である平野に到着。約5キロの“川”歩きでしたが、素敵な案内人に恵まれ、山中湖の新しい魅力にふれた1日でした。



相模川の渡し船

五街道とは、江戸時代に東京の日本橋を起点とした五つの街道のことで、東海道・中山道・日光街道・甲州街道・奥州街道をこう呼んだ。このうち、東海道と甲州街道は、桂川・相模川を通過することでもあり、往時をしのでみたい。

おりしも、今年は徳川家康が慶長6年(1601年)に東海道の宿駅制(五十三次)を設けて400年目であり、各地では、これを記念してさまざまなイベントが開かれている。相模川最下流の宿場町であった平塚市でも馬入の渡しを復元し、対岸の茅ヶ崎市との交流を図ることにしている。

ところで、現在のように、道路や鉄道が整備されていない昔は、旅をするにも相当難儀したにちがいない。また、戦略的な立場や技術的な理由からか、大きな川に橋をかけることもなかった。

文化7年(1810年)に旅の心得として発行された道中用心集によれば、川渡の事として次のようなことが記されている。

・旅先にてしらぬ川かちこし、決してすべからず。また出水にて橋を流し、かちこし、船渡し等になることあり。かような場所は宿役へ掛け合うべし。自分相対にすべからず。諸事宿役へ掛け合い置かば何事ありてもよきものなり。(注：かちこし＝川の中を歩いて渡ること)

・川越しある場所、女子を連れ立つことあるときはその用意あるべし。婦人は男子と違い、うちばなるものゆえに、川端に臨んで大河の水勢におそれ、そのうえ川越し人足の乱雑なるに驚き、逆上して血の道おこり、難儀する人まあまり。これによって川越しある場所は前日よりその混雑なる次第をとくと言い聞かせ、連中の者前後して、驚かざるようにかねて心付け置くべし。かような場所には宿役等ありて、少しも気遣いなきことなれども、女子は驚きやすきものなれば、川越しにも限らず水辺船渡し、山坂等すべて險阻なる所は前かたより言い聞かせ置くこと肝要なり。

ご存じのように、相模川は、相模国(神奈川県)最大の河川であり、上流の桂川には有名な猿橋等があったものの、川幅が広く、水量の豊かな下流部には橋がなかった。古書によると、川筋には何

箇所もの渡し船場があり、相模原市や厚木市には、田名の渡し・当麻の渡し・厚木の渡し・戸田の渡しなどがあり、平塚市内にも大神の渡し・田村の渡し・四之宮の渡し・馬入の渡しなどがあった。

天保年間に編纂された新編相模風土記寄稿によると、東海道の馬入の渡しでは「渡船三、平田船二、御召船一を置く、但し一艘に水主(かこ)三人宛なり」と記されていて、常時六艘の船が用意されていた。この当時の船賃は十二文で、武士とか僧侶は無料。また、大神楽、猿回しなどの遊芸人は、川役人に芸を観てもらい、渡賃に代えることができたという。

渡し船にまつわる話もたくさん伝えられていて、渡し船場を舞台に三人の侍が喧嘩して斬り死にした(慶長10年・馬入蓮光寺過去帳)とか、大名の荷物を誤って川の中に落としてしまった際の詫言などが残っている。

あるとき、徳川家康公が四之宮の渡しで中原御殿(平塚市中原)から江戸に向かう途中、乗船してすぐに鱸(とも→船尾)の方に座られた。船頭は、殿様に尻を向けると失礼になるので、考えあぐねた末に船尾の方から船を出した。家康は、これを訝しんで、その訳を船頭に尋ねた。船頭は「殿様を後にすることは恐れ多いことです」と答えて、御感にあずかったという。[四之宮に伝わる逆船(サカサフネ)伝説]

いずれにしても、相模川の渡し船は、昭和47年に城山町葉山島と相模原市田名の間を行き来していた下川原の渡しが廃止され、すべてなくなってしまった。

(S)



地域協議会活動報告

【相模川湘南地域協議会】

★初年度報告書作成と配布(5/29)

B6版28項の報告書を運営委員会が編集、印刷し、定期総会と湘南地域の全会員に配布

★クリーンアップキャンペーン(6/3)

神奈川県のパッチクリーンアップに連携し、相模川河口部の清掃を行った。(参加27名)

★学習会：環境夢十話第4回(7/18)

厚生労働省、熊谷和哉氏の「水資源と水処理技術」水処理技術の歴史的な総括と解説。

★生物の観察会 (9/8)

馬入水辺の楽校を会場に、相模川の自然環境や河川敷に暮らす生きものたちを観察した。

(今後の予定)

☆「循環型社会について」田中充氏 (法政大)

10/11 13時～15時 於：平塚MNHビル

☆「地球と水、人と水のかかわり」

11/26 13時30分～15時30分 講師は寺本俊彦氏(東大名誉教授、平塚市環境審議会長)

☆1月と3月にも実施の予定

お知らせ

この秋は、流域シンポジウム・上下流交流事業に参加しませんか。

相模湖を 知ろう・遊ぼう・体験しよう

相模湖の歴史、現状をとおして流域の今後を考えます。今年は、上下流交流事業(各種イベント)を同日開催します。

日時：11月18日(日)

・シンポジウム 10:00～ 相模湖交流センター

・上下流交流事業 13:30～ 県立相模湖公園他
(遊覧船、カヌー体験乗船、ダムサイト見学など)

主催：桂川・相模川流域協議会

※参加に関するお問い合わせは、下記事務局まで

あなたも入会しませんか!

★市民年会費：個人会員 一口1,000円(一口以上)
なお、団体として加入される会員の方は、
二口(2,000円)以上でお願いします。

★事業者年会費：一口10,000円(一口以上)

<振込先>

郵便振替：振込口座 00220-5-10259
名 義 桂川・相模川流域協議会

銀行振込：振込口座 三井住友銀行横浜支店
普通預金 6825559
名 義 桂川・相模川流域協議会
代表幹事 桑垣美和子

編集後記

◆三浦半島小網代湾のアカテガニ放仔は何度見ても感動です。森や川の健康が保たれて始めて、豊かな生命の舞台が存在できることを、夏の大潮の夜に確かめてください。(A)

◆編集委員となって始めての本号、執筆者や各委員の皆さんの協力により、なんとか発行にごぎつきました。今後も、充実した内容を目指します。(H)

◆本年度植林体験で植林した樹種ですが、暖かな日が続き、当初予定していたミズメの葉が開いてきてしまったため、急きょ、樹種を変更せざるを得ませんでした。参加者の皆さんへのお知らせが間に合わず、申し訳ございませんでした。(O)

◆3年間の議論の末、「アジェンダ21桂川・相模川」の行動指針・行動計画の約8割が合意された。両県の担当課が加わり「森づくり」についての専門部会が立ち上がり、神奈川県内では水源環境を考える出前懇談会やミニシンポジウムも始まっている。桂川流域に広がる森林や丹沢は豊かな水をはぐくむ水源。その貴重さをたくさんの人に知ってもらいたい。(K)

◆「流域のまつり」を担当しました。本号で紹介した祭り以外にも流域には、様々な祭りがあるのですね。また、別の機会に紹介したいと思います。(S)

あじえんだ113

No.7 (2001.10.22発行)

発行 桂川・相模川流域協議会

編集 あじえんだ113編集委員会

事務局 山梨県森林環境部環境活動推進課 〒400-8501 甲府市丸の内1-6-1 TEL(055)223-1503 FAX(055)223-1507

神奈川県環境農政部大気水質課 〒231-8588 横浜市中区日本大通1 TEL(045)210-1111 内4128 FAX(045)210-8846

(この冊子は再生紙を使用しています)